

第 8 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 施策検討シート

施策名：施策③ 在宅療養生活を支える在宅医療と介護サービス基盤の整備

在宅療養・認知症施策分科会

◎目標

- 要介護状態になっても、在宅で安心して高齢者の希望する在宅療養生活を続けることができるよう、相談体制の充実や在宅医療・介護サービスの環境を整備し、関係者間の連携強化を図ります。

◎現状と課題

【現状】

- 区内の医療資源は、令和元年 11 月現在、病院が 19 か所、診療所が 527 か所（内、在宅療養支援病院 3 か所、在宅療養支援診療所 75 か所）、歯科診療所が 460 か所、調剤薬局が 311 か所、訪問看護ステーションが 66 か所ある。
- 区内の介護サービス事業所は、令和元年 10 月 1 日現在、施設サービスが 46 か所、居宅介護支援が 218 か所、居宅サービス・介護予防サービスが 587 か所、地域密着型サービス・介護予防地域密着型サービスが 197 か所で、計 1,048 か所ある。
- 看護小規模多機能型居宅介護（3 か所）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護（13 か所）、認知症高齢者グループホーム（34 か所）を整備
- 地域包括支援センターの再編に合わせ、医療と介護の相談窓口 25 か所に増設し、各センターに医療・介護連携推進員を配置（保健師等と兼任）。
- 地域ケア会議の開催（H30 年度実績 推進会議 2 回、圏域会議 8 回、個別会議 360 回、予防会議 50 回、センター会議 50 回）
- ケアマネジャーの育成・支援
 - ・ 事業者の枠を超えてケアマネジャーを育成する地域同行型研修の実施（H30 年度実績 3 回、延 135 名）
 - ・ ケアマネジャーの更新に資する研修受講費用を助成（H30 年度実績 132 名に助成）
- 高齢者の約〇割が自宅で最期を迎えたいと思っている。
- 在宅や施設での看取りは増加している。
- 区民の多くは病院で亡くなっているが、17%は自宅で最期の時を迎えている。
- 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について家族や医師等と話し合ったことがある高齢者は、〇%にとどまっている。

【課題】

- 区民が在宅療養を知り、地域で相談・支え合いができる環境の整備が必要。
- 医療・介護専門職が在宅療養を推進できる環境の整備が必要。
- 小規模多機能型居宅介護（H31 年 3 月の利用率 65%）、看護小規模多機能型居宅介護（H31 年 3 月の利用率 43.1%）など、利用率が低い地域密着型サービスの利用促進。

◎国等の動向、関連する調査・計画等

- 医療介護総合確保推進法
- 介護保険 地域支援事業 在宅医療・介護連携推進事業
- 東京都地域医療構想 保健医療計画
- 医療施策の方向性に関する提言（練馬区） ○ 練馬区在宅療養推進事業
- 医療・介護資源調査
- 死亡小票分析
- 高齢者基礎調査

◎施策の方向性

- 区民が在宅療養を知り、地域で相談・支え合いができる環境の整備
 - ・ 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発
 - ・ 終末期支援の検討
 - ・ 身近な地域で専門的な相談支援が受けられるよう地域包括支援センターの移転・増設
 - ・ 在宅療養を支える地域活動の普及啓発および担い手の育成等の支援
- 医療・介護専門職が在宅療養を推進できる環境の整備
 - ・ 医療と介護が連携した地域ごとの在宅療養ネットワークの強化
 - ・ （仮称）医療連携・在宅医療サポートセンターの創設
 - ・ ACP の理解促進
 - ・ 地域密着型サービスの地域バランスを踏まえた整備
 - ・ 各施設の整備目標については、高齢者人口の推移や要介護者の予測、高齢者基礎調査の結果を勘案し設定